

点検調書 (その3) 判定区分判定結果

ブロック番号

施設 ID		施設 No.	
フリガナ施設名	路線名	管轄	

工程	材料	判定区分				備考			
		部材種別	区分Ⅰの状況	区分Ⅱの状況	区分Ⅲの状況		区分Ⅳの状況		
		部材番号	記号	名称					

点検調書 (その4) 状況写真

施設 ID	フリガナ 施設名	路線名	管轄	施設 No.

点検調書 (その5) 変状図

施設 ID	ブロック番号		
フリガナ 施設名	路線名	管轄	施設 No.

部 材 番 号 図

点検調書(その6) 変状写真

ブロック番号

写真番号	撮影年月日	要素番号	写真番号	撮影年月日	要素番号	撮影年月日
部材名	メ		部材名	メ		メ
変状の種類		変状程度	変状の種類		変状程度	
変 状 写 真						
写真番号	撮影年月日 <td>要素番号 <td>写真番号 <td>撮影年月日 <td>要素番号 <td>撮影年月日</td> </td></td></td></td>	要素番号 <td>写真番号 <td>撮影年月日 <td>要素番号 <td>撮影年月日</td> </td></td></td>	写真番号 <td>撮影年月日 <td>要素番号 <td>撮影年月日</td> </td></td>	撮影年月日 <td>要素番号 <td>撮影年月日</td> </td>	要素番号 <td>撮影年月日</td>	撮影年月日
部材名	メ		部材名	メ		メ
変状の種類		変状程度	変状の種類		変状程度	

**点検調書(その7) 変状程度の評価記入表
(主要部材)**

施設 ID			
フリガナ 施設名	路線名	管轄	施設 No.

工種	材料	部材種別			変状程度			変状 パターン	変状の種類	分類
		名称	記号	要素番号	変状程度の評価	定量的に取得した値	単位			

点検調査(その8) 変状程度の評価記入表
(点検調査(その7)に記載以外の部材)

施設 ID				ブロック番号			
フリガナ 施設名	路線名	管轄	施設 No.				

工種	材料	部材種別			変状程度			変状 パターン	変状の種類	分類
		名称	記号	要素番号	変状程度の評価	定量的に取得した値	単位			

点検調書(その9) 変状程度の評価結果総括

ブロック番号

施設 ID							
フリガナ 施設名	路線名	管轄	施設 No.				

工種	材料	部材種別			今回定期点検	点検日	年月日	前回定期点検	点検日	年月日	変状の種類(程度)
		名称	記号	部材番号	変状の種類(程度)	変状の種類(程度)					

点検調査(その10) 対策区分判定結果(主要部材)

施設 ID					
フリガナ 施設名	路線名	管轄	施設 No.		

工種	材料	対策区分							診断結果						
		部材種別	変状の程度	補修等の必要性		維持工事で 対応する 必要性	緊急対応の必要性		詳細調査の 必要性		原因	健全度 (部材単位)	所見		
				区分B の変状	区分C1 の変状 更新		区分C2 の変状	区分M の変状	区分Eの変状					区分S1 の変状	区分S2 の変状
									更新	区分E1 の変状					
最大	最小	部材番号	記号	名称											

点検調書(その11) 対策区分判定結果
(点検調書(その10)に記載以外の部材)

施設 ID							
フリガナ 施設名	路線名	管轄			施設 No.		

工種	材料	部材種別		変状の程度		対策区分							健全度 (部材単位)		検査結果 所見				
		名称	記号	最大	最小	補修等の必要性			維持工事で対応する 必要性	緊急対応の必要性		詳細調査の必要性							
						区分B の変状	区分C1 の変状	区分C2 の変状		区分M の変状	区分E1 の変状	区分E2 の変状				区分S1 の変状	区分S2 の変状		

点検表記録様式 (2)大型カルバート

注1:施設IDは、起点の位置情報(緯度・経度)によるものとする。なお、IDの取得については、〇〇〇〇の記入例を参照すること。
 注2:各道路管理者にて、既に独自のシェッドNo.等を併記する。
 注3:経度・緯度については、0.1"単位まで記入することとする。
 なお、位置情報(緯度・経度)の取得については、トータルステーション、ポータブルGPS等の機器のほか、携帯電話及びスマートフォン

点検調書(その1) カルバートの諸元と総合検査結果																	
施設ID	93690118																
フリガナ 施設名	〇〇カルバート 〇〇カルバート			路線名	一般国道〇〇号〇〇バイパス			〇〇地方整備局	施設No.	100							
所在地	自	〇〇県〇〇市神分		位置情報 (世界測地系)	起点	緯度	36° 18' 30"		距離標	自	123.0 km + 45m		管轄	〇〇国道事務所	調書更新年月日	2015年1月20日	
	至	〇〇県〇〇市神分			終点	緯度	36° 18' 5.0"			至	123.0 km + 73m			〇〇国道出張所			
					経度	139° 57' 30.0"											
					経度	139° 57' 40.0"											

路線情報	道路規格	3種1級		設計速度	80 km/h		設計条件情報	道路線形	縦断勾配	2 %		総点検結果	異状なし		
	調査年	2010年		区間番号				横断勾配	1.5 %		災害履歴の有無	無			
	交通量	昼間12時間			8,833 台			曲線半径	半径	200 m	区間長	28 m	最新の補修履歴	無	
	大型車混入率				58 %			供用開始日	2013年度		2013年12月28日		点検履歴 (特記事項は備考欄に記載)	*2005年〇月〇日 総合的な評価 I *2010年〇月〇日 総合的な評価 I	
	荷重制限				— t			適用基準	道路土工カルバート工指針(平成21年度)						
	緊急輸送道路の指定				有			上部道路活荷重	B活荷重						
	優先確保ルートの指定				有			上部道路との斜角	65 度						
	事前通行規制・迂回路				無 有			積雪荷重	— kN/m ³		積雪深	0 m			
	融雪剤等散布区間							地震荷重(水平震度)	0.20						
	施設種別				横断ボックスカルバート			基礎地盤N値(土質条件)	10(砂質土)						
構造諸元共通情報	延長/ブロック数	28 m		2 ブロック		基礎地盤改良状況	セメント改良								
	内空高	7.00 m				地下水位	-3.5 m				補修履歴 (特記事項は備考欄に記載)	*無し			
	内空道路	全幅員/有効幅員/車道幅員	10.50 m		8.90 m 3.75 m		その他荷重	— kN/m ³							
		車道幅/車線数/歩道幅/地覆幅					内面	形状	矩形:7m×28m						
		上り線側	3.75m/1車線/0.70m/0.30m					浮石の状況	有り						
	下り線側	—				目地部の異常		無し							
	構造形式			場所打ちボックスカルバート		鉄筋	防食工法/塗装系	溶融亜鉛メッキ		—					
	使用材料			鉄筋コンクリート			塗装面積	— m ²							
	土かぶり			1.5m		コンクリート	セメント種類/W/C	BB		55 %					
	基礎形式			直接基礎			かぶり	60mm							
照明(種類/灯数)			有(蛍光灯)												
海岸からの距離			500m												
現地写真 全景				現地写真 近景				位置図							
道路台帳番号				図面番号5/20				区間順序番号							
事業種別				一般国道〇〇号〇〇バイパス											
設計者				〇〇コンサルタント											
施工者				〇〇建設											
マイクロフィルム番号															

健全度の判定 (総合評価)	III	所見	側壁に幅の広いひびわれが見られ、カルバート延長方向に続いており、構造上の弱点箇所となる可能性が考えられた。継手のずれた部分から裏込め土の流入が見られた。これらの状態は、構造安全性に影響を及ぼす状態になる兆候であり、措置が必要である。 また、照明器具の劣化については、第三者被害防止の観点から、器具の交換等の措置が必要である。
------------------	-----	----	---